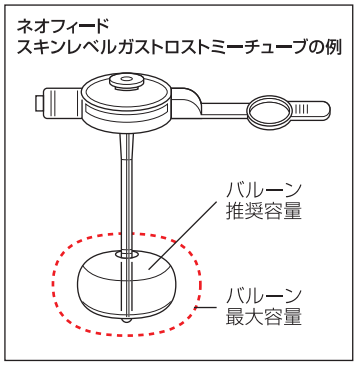
No.7 …… ご使用に当って特に注意して頂きたいことのレポートです

TOP SAFETY REPORT

経腸栄養チューブ
（胃瘻用 バルーンタイプ）

1 バルーンへの注入量は適正に



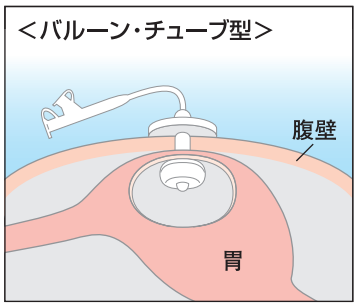
Check 1 バルーンには、必ず推奨容量を注入してください

バルーンへの必要以上の過注入は、バルーンの耐久性を低下させ、破裂を誘発するおそれがあります。

Check 2 バルーンに注入した滅菌蒸留水は、1週間に1度交換してください

長期に放置すると滅菌蒸留水が抜けなくなったり、滅菌蒸留水の減少によるチューブの自然脱落のおそれがあります。

2 バルーンとチューブが正しい設置か確認しましょう



Check 1 栄養剤を投与する前に、必ずバルーンの位置確認をしましょう

栄養剤投与の開始前には、バルーンが胃内に適切に設置されているか確認します。バルーンの位置が腹腔内にある状態で栄養剤を投与すると、腹膜炎、敗血症などの重篤な合併症を引き起こすおそれがあります。

Check 2 チューブの位置確認をしましょう

（バルーン・チューブ型の場合）患者さんの体外に出ているチューブが、通常より短くなっていないか定期的に確認してください。チューブが腸内に引き込まれることにより、イレウスを引き起こすおそれがあります。

3 チューブをきれいに保ちましょう

Check 1 栄養剤等の投与前後には、必ず微温湯でフラッシュします

チューブの詰まりの原因で最も多いのは、栄養剤が溜まることによる閉塞で、体液や薬液が原因となることもあります。栄養剤等の投与前後には、適量の微温湯でチューブ内をすすいでください。

4 短期留置の製品です

Check 1 長期間留置を目的とした製品ではありませんので、1ヶ月未満で新しい製品と交換してください

胃酸等に長期間さらされることによる材質の劣化等で、バルーンの破裂やバルーンルーメンの閉塞を誘発するおそれがあります。

株式会社トップ 安全管理部
〒120-0035 東京都足立区千住中居町19番10号

使用の際には、必ず詳細を添付文書及び取扱説明書にて確認してください。